

## 平成25年山武市教育委員会第9回定例会会議録

1. 期 日 平成25年9月18日(水)
2. 場 所 教育委員会庁舎会議室
3. 開 会 午後1時28分
4. 出席委員 委員長 五木田 孝義  
委員長職務代理者 高橋 尚子  
委 員 京相 光徳  
委 員 小野崎 一男  
委 員 嘉瀬 尚男  
教育長 金田 重興
5. 欠席委員 なし
6. 議場に出席した職員の職及び氏名  
教育部長 渡邊 聡  
教育総務課長 小川 宏治  
学校教育課長 鵜澤 政仁  
学校教育課指導室長 齊田 謙一  
生涯学習課長 土井 紀子  
スポーツ振興課長 川島 勝喜  
保健福祉部長 長谷川 晃広  
子育て支援課長 田上 和弘  
  
事務局  
教育総務課総務企画係長 秋葉 一徳  
教育総務課総務企画係 篠原 正洋

開会 委員長が挨拶し午後1時28分開会を宣する。

日程第1 ○会議録署名人の指名

五木田委員長が議長となり、京相委員を指名する。

日程第2 ○会議録の承認

第8回定例教育委員会の会議録を全員異議なく承認。

### 日程第3 ○教育長報告

報告書に基づき、8月22日から9月18日までの主な業務内容について報告。(主な点は次のとおり)

- 8月24日 少年海外派遣研修生が無事帰国した。後ほど嘉瀬団長から感想を交えた報告をいただきたいと思う。
- 25日 山武西小が8の字縄跳びでテレビに出演し、全国4位という立派な成績を収めた訳だが、単に4位入賞の喜びを越え、学校経営の観点から大変大きな成果と子どもたちの成長があったと喜んでいる。
- 26日 管理職選考志願者数名に面接を行った。後日、東上総教育事務所へ学校教育課長とともに書類提出をしてきた。本年度の受験は校長が6名、教頭が14名である。
- 27日 1学期にいろいろな問題が発生したことを受け、危機管理研修ということで警察OBの星幸弘氏を講師に招いて研修会を行った。
- 28日 山武北小学校の校長から校内研修の誘いがあり行ってきた。幼小中の連携、ユニバーサルデザインの授業についての研究が行われた。時期を得た大変有意義な研究であったと思う。
- 9月 3日 市議会第3回定例会が開会し椎名市長が再選の表明を行った。
- 5日 議会一般質問が行われた。一般質問では、今年の夏の暑さをうけて全校にクーラーの設置要望、教育委員会制度、体罰・不登校、指定管理者制度についての質問があった。翌日6日の一般質問では、交通安全、いじめ・体罰・虐待、予算についての質問があった。
- 7日 成東東中、蓮沼中、松尾中学校で体育祭が行われた。
- 10日 校長会議が行われた。東上総教育事務所課長会議の報告、議会報告、4月に行われた学力テストの公表についての協議、ICT推進状況について、いじめ報告の判断をいかにすべきかについて報告や協議を行った。
- 12日 文教厚生常任委員会が開かれた。後ほど協議をいただくが平成23年度に発生した事故に関する慰謝料問題について話し合いが行われた。
- 13日 指定管理者選定委員会が行われた。現在、市において指定管理者制度の検討を要する施設が82施設ある。教育委員会が管理する施設も20施設ほど含まれている。今後、教育委員会内部で検討し方向性を定めなければならないと思っている。
- 同日、給食センター運営委員会が行われた。今回の議題は給食費の値上げについてということであった。前年度に委員の中から給食の充実を考えて、子供たちの健康を考えて、値上げをすべきではないかというような意見があったことから、事務局として提案をさせていただいた。決して単なる値上げでなく、子どもたちの健康、給食の充実ということからの値上げである。この委員会においても後日

ご協議をしていただくことになる。

17日 行政改革推進本部の会議が行われた。

18日 文教厚生常任委員会の協議会が開かれ、本日の日程第4の議決事項の件について、協議が行われたところである。

その他 教育委員会には市民からいろいろ要望や意見が寄せられている。ある方から太平洋戦争の沖縄戦のDVDに1フィート運動というものがあるが、このDVDを是非全校の子どもたち見せて欲しいという要望があった。同じように反戦、平和を求めるといことで旧成東には成東春秋倶楽部がある訳だが、その倶楽部で過去に発行した「戦中戦後を生きて」という冊子がある。これを全校の子どもたちが読んでもらい考えてもらいたい。そしてその予算措置をしてもらいたいという申し出がある。加えてこの方からは、伊藤左千夫の詩をコーラスにしたものがある訳だが、これも全校の子どもたちに聴かせて欲しいという要望が出ている。

委員長：議案第1号「事件の撤回に同意することについて」、議案第2号「事件の訂正に同意することについて」は議会の提出前であり、協議第1号「要保護・準要保護の認定について」は公開に適さない事項であることから、教育委員会会議規則第12条の規定により秘密会としたい旨、提案。

（「異議なし」の声）

#### 日程第4 ○議決事項

※議案第1号及び議案第2号は関連していることから一括して説明。

議案第1号 事件の撤回に同意することについて

議案第2号 事件の訂正に同意することについて

教育部長：議案第1号及び議案第2号について一括して経緯を説明。

※議案第1号及び議案第2号は原案のとおり同意。

#### 日程第5 ○協議事項

協議第1号 要保護及び準要保護の認定について

学校教育課長：新規1世帯4名について説明。

※1世帯4名について認定。

#### 日程第6 ○報告事項

報告第1号 山武市議会第3回定例会の報告について

教育部長：資料に基づき、山武市議会第3回定例会の一般質問の概要、答弁要旨について報告。

#### 報告第2号 山武市学校のあり方検討委員会の会議結果について

教育総務課長：8月29日に委員16名、事務局6名で開催され、答申内容の骨子案について、山武市における望ましい学校規模と通学距離についての協議を行った。答申内容の骨子案については、先進地の自治体の事例を用いて答申書の全体構成についての説明をさせていただいた。山武市における望ましい学校規模と通学距離については、今後、協議検討していくうえでの基準となる事項であり、アンケートの結果を踏まえ協議したところ、①山武市における小中学校の適正規模ということで、小学校については1学年あたりの学級数は2学級以上、1学級あたりの児童生徒数は20人～30人。中学校については1学年あたりの学級数は3学級以上、1学級あたりの児童生徒数は20人～30人が望ましいということになった。②複式学級の取り扱いについては、適正規模の観点、教育上の観点から併せて、複式学級というのは解消、そういう学校が無いような形の見直しの方向で検討された。③山武市における小中学校の通学距離については、国で示された基準と同じく、小学校はおおむね4キロメートル以内、中学校はおおむね6キロメートル以内となった。ただし、統廃合等による対策では、もし現在の組合せから変わった場合に、例えば通学に際しては、スクールバスを出すなどの補完措置が必要になってくるのではないかということが、今後協議されることとなった。以上があり方検討委員会の会議結果の報告である。ここからはご相談になるが、今後、あり方検討委員会の答申は3月に答申することで作業を続けている。それを受けて教育委員会としての基本方針を定めることが今後のスケジュールとして出てくる。資料4ページにあり方検討委員会の答申の項目と教育委員会としての基本方針の項目が書かれているが、こういった形のもを、今後教育委員会としてあり方検討委員会の答申を受けてつくっていく作業が始まる訳だが、3月に答申を受けてからでは相当な時間がかかってしまうこともあり、ある程度こういう形で事務局の方からあり方検討委員会の協議で決まった内容を随時報告し、それを踏まえ教育委員会としての考えをそろそろまとめていく時期にきているのではということ、定例会でこれを行うには時間がかかってしまうことから、定例会が終わった後や別の日に時間を設けさせていただいて、作業を始めていきたいと考えている。ご意見をいただければと思う。

五木田委員長：事務の効率化ということで、あり方検討委員会と並行して事務作業を進めて行きたいという事務局からの提案であるがよろしいか。

(「異議なし」の声)

教育総務課長：事務局から改めて時期や作業方法についてご提案させていただく。

### 報告第3号 山武市子ども・子育て会議について

子育て支援課長：山武市子ども・子育て会議については、今回の議会に子ども・子育て会議の設置に関する条例として、山武市子ども・子育て会議条例を提案したのでここで報告させていただく。平成24年8月22日に子ども・子育て関連3法が成立し、平成27年度から子ども・子育て支援を総合的に推進するため新制度が開始されることとなった。この新制度の狙いについては、質の高い幼児期の学校教育、保育の総合的な提供、保育の量的拡大確保、さらには地域の子ども子育て支援の充実とされており、この新制度による給付事業を計画的に実施していくため、法律により市町村に子ども・子育て支援に関する事業計画の策定が求められているところである。そこで子ども・子育て支援に関する事業計画を策定する際や変更する際、又は教育保育施設や特定地域型保育事業の事業定員を定める際、子ども・子育て支援に関する施策の総合的かつ計画的な推進に関し、必要な事項を調査、審議する際に保護者を含む子ども・子育て支援に関わる者の意見を聴く手段として、子ども・子育て支援法第77条の規定により、子ども・子育て会議を設置するものである。そして、この会議を設置した際には、今まで設置していた山武市の公立幼稚園・保育所のあり方検討委員会は、この会議に移行し廃止していくことを予定している。(以下、資料及び条例案に基づき、概要を説明。)

保健福祉部長：子育て支援課長から説明のあった子ども・子育て会議の設置条例については、表現は変わるが既存の幼稚園、保育所、こども園、それから家庭的保育の関連を、一括してこの条例で括るものである。山武市は今まであり方検討委員会ということで、公立の幼稚園、保育園の整理統合を行い、一段落をみた段階にある。今後は残されている民間の施設と公立の幼稚園、保育所の整理統合をできるだけ行いたいと考えているところであり、この会議がスタートするにあたって、その趣旨に整合するように今後の運営を図っていきたいと思っている。整合するようというのは、山武市が国の動きよりやや先行している形になっており、法律ができた訳だが、その法律にそぐわないような内容ではまずいので、法律に則った適合する施設運営を図りたいと考えているところである。議会からも山武地域、松尾地域、蓮沼地域の再編という形でいろいろな要望が出されており、これをまずこの会議で取り掛かることになる。ただ、民間が入ると民営化というのはなかなか難しい点がある。まず、利用される市民の方々の承認、同意が得られることが大前提となってくるが、これについてはなるべく理解を得られるような努力を重ねていきたいと考えている。9月の補正予算があるが、補正予算について

も地域と検討ができるような予算措置を併せて上程している。今後平成27年度とは言わず国の動きをなるべく早く把握し、この子ども・子育て会議で皆さんに検討していただいて、より良いものを目指していきたいと考えているのでよろしく願います。

小野崎委員：先程の学校のあり方もそうかもしれないが、とにかく施設整備の問題が中心に動くと思うが、それだけではなく、せっかくこれだけいろんな方々がいるのでソフトの部分について論議してもらうような内容にしていただければと思うので、検討の一つに是非していただきたい。

#### 報告第4号 ICT環境整備計画進捗状況について

学校教育課長：今までに何度か提示しているスケジュール表について、大きく異なるところは納入期限であり、当初の計画では平成25年度内に全て導入し平成26年度には完全に稼働するように計画を立てていたが、いくつかの理由があり1年間延期をする形でスケジュールを変更したいと考えている。それに伴う会議予定は資料のとおりである。なぜ1年間延期をするのかということだが、今までICT化ということで進めてきたのは、まず、コンピュータを新しくする事業、データを保存するサーバーを一元管理していく事業、先生方や学習者を支援するためのICT支援員これら3本を柱として進めてきた。その中でコンピュータシステムが大きく変動期を向かえており、大きいデスクトップ型からノート型になり、さらにはタブレット型が台頭してきている。子どもたちの教育環境を見ると、既にスマートフォンの所有もしくは使用率が非常に高くなっており、子どもたちはビジュアルなものがこれからの教育上必要であろうし、それが最もいいのであろうということで、コンピュータ自体をタブレット型PCに変更しようとしているものである。そのために、既存の学校については1台もタブレット型PCが入っていない。また、近年になってコンピュータシステムを入れ替えた学校においても入っていない。そこで全学校にタブレット型PCを必要数入れるということで大きく変動した。台数としては243台の増である。これらを増やしていくと全体で701台の子どものタブレット型PCが準備されることになる。また、コンピュータのデータの一元化については、クラウド化という話をさせていただいてきた。クラウドシステムの方がかなり一般的になってきており、値段も徐々に安くなってきている。これが更に変動していくだろうということも含めて、つまり予算の関係ということである。ICT支援員については、そういう支援をする自治体が増え同時に企業の支援内容も充実してきた。これら3つの点を考え、子どもたちへの環境は1年遅くなってしまうが、5年間くらい先を見据えた場合のより良いものということ

で、1年間先に延ばしてより良いものを提供したいと考えているところである。これらが、予算を来年度に繰り越し更に整備計画を遅らせた要因である。また、関連する案件として、実証実験を本年度の2学期から3学期にかけて実施ができな  
いかということで、いろいろ検討を行ってきた。その中で1つ浮上してきたのが、  
企業とマイクロソフトがタッグを組んで、ICT環境ということでタブレットPC、  
クラウドシステム、校務支援システム、これらについて山武市で実証実験をする  
のであれば、協力をいただける段階になった。そこで10月から来年の2月位まで  
の短い期間ではあるが、コンピュータを借りクラウド上のソフトウェアを使いな  
がら実証実験をしたいと考えているところである。モデル校としては貸出コンピ  
ュータ数の関係で2校位にしぼってほしいということから、中学校で先進的に取  
り組んでいる蓮沼中学校、もう1校は小学校を検討し2校で実証実験をしてみたい  
と考えている。1年間延期をしたということと、この実証実験に加わるというこ  
とについてご意見いただければと思う。

嘉瀬委員：1年間先に延ばしてより良いものになるとのことだが、コンピュータの台数  
が大幅に増えることで、予算的な措置として補助金などの面での対処策はあるの  
か。

学校教育課長：平成25年度の予算でこれらを整備しようとした場合には、補助金はなく  
全て一般財源となるがここに来て国がICT戦略を出してきた。補助金がありそう  
なので早めに手を上げて平成26年度の申請を予定している。補助金については3  
分の1と思われる。

嘉瀬委員：実証実験に係る経費はあるのか。

学校教育課長：実証実験に係る費用負担は一切ないが、条件として実証実験の結果を情  
報として提供することになっている。

五木田委員長：実証実験とは具体的にはどういうことか。

学校教育課長：各学校40台位のタブレット型PCを、実際に先生方や子どもたちに使っ  
てもらい、使い勝手などを検証していくものである。期間は4ヵ月間程度。

京相委員：この企業は教材関係の企業だと思うが教材の関係で関わっているのか。

学校教育課長：この企業は総合ベンダーであり、システムとしてソフトウェアも販売し  
ているが、機器も含めた全体的な請負もする企業である。今回はこの企業とマイ  
クロソフトが組んで実証実験のシステムをつくったことから、それを活用しよう  
とするものである。

## 報告第5号 全国学力調査について

学校教育課指導室長：全国学力調査については、平成21年度に全国一斉に実施されて以

来、3年間の時をおいて本年度に一斉の全国学力調査が4月24日に行われ、その結果が8月27日に発表された。この結果について山武市教育委員会としては、まず実態を知ることが大事ということも兼ねて、現状の中から家庭、学校、教育委員会が力を合わせて、学力向上に市全体として取り組むことが重要ではないかという考えのもと、全ての児童生徒に市内全体の平均を公表することとなっている。

(以下、資料を基に、全国学力・学習状況調査の公表内容を説明。) 他市町の公表の状況については、山武市と同様の公表を行うのは東金市のみであり、その他は公表を行わないこととなっている。

五木田委員長：この公表については新聞などでいろいろ報じられているが、公表についてはいかがか。

(「異議なし」の声)

学校教育課指導室長：公表の目的はあくまでも学力向上に向けて学習改善を皆で考えること。そのためには現在の状況を知らせた方がいいだろうという判断で、平成21年度も同じ方向で行っている。保護者への通知は9月30日付けで各学校へ配布し学校から保護者へ送付される。

休憩 14:45から  
14:55まで

#### 報告第6号 少年海外派遣研修事業報告について

生涯学習課長：8月17日から24日までの6泊8日ということで、市内の中学生15名がニュージーランドのオークランドシティを訪問してきた。研修生たちは、ニュージーランドでの体験学習や地元パ克蘭ガ中学校での学校体験、そして4日間のホームステイを通じて、多くのことを学び体験し目を輝かせて帰国してきた。(以下、資料に基づき、研修内容及び活動内容を報告。) 研修の成果の発表の機会として、11月16日に開催予定の山武市生涯学習振興大会において、代表者3名程度で発表を行う予定である。

嘉瀬委員：生涯学習課長から報告があったとおり、研修生15名と随行者として山武南中の小高校長、添乗員を含めた総勢18名で海外派遣に行ってきた。研修中は特に事故や体調不良を訴えることもなく、全てのプログラムを無事に終了できたことを報告する。事前研修4回、現地研修8日、事後研修1回ということでかなりの期間を要した。現地での様子は、まず、日本とは大きく違う学校の様子、授業の様子が先生方によってそれぞれ違い、基本的に雰囲気はまるで自由であるということ



があった。研修生たちもクラスには入ったが、それぞれ違うクラスに入ったので雰囲気の違いをそれぞれの研修生が感じたと思う。短い期間だったが、英語力がついていないので実際の授業の中身としては、子どもたちは苦勞していたようである。ただ、ニュージーランドという国柄でマオリ族を中心とした多民族、多様な人種がいる中で、自分たち日本人も違和感なく受け入れられているという環境、そういったものをきちんと感じ取れてきていると思う。そういった面では非常にプラスになったと思っている。また、いろいろな人種がいる中でそれぞれを認めて受け入れているという環境にあるところでは、自分から発信していかないといけないことも分かってもらえたかと思う。現地でのプログラムにマルチカルチュラルコンサートがあり、研修生は事前研修から南中ソーランと合唱を練習していたが、研修に行く前は少し不安の残る状態であったが、現地での直前の練習でも非常に集中力がでて、思った以上の結果を出してくれていた。もう一つは、行く前から日本との違いをしっかりと見てくるようにという話もあったし、自分たちもこういうところを見たいということも言っていたが、違うところだけではなく、同じところも見たいというようなことを伝え、全く違う人たちではない、自分たちと同じところもあるということも見てもらった。クラスの中では先程ICTの話があったが、普通に教室の中ではタブレットを使っているし、ノートパソコンも自由に自分で持ってきて使える環境で、各クラスにはプロジェクターなどが常設されていて、それを使っての授業が普通に行われていた。学校運営などについても、日本とかなり違う運営方法ということで、私自身も大変勉強になった。この研修について今回参加させていただいたが、ぜひ学校の先生に行ってもらいたいと思った。自分たちも学校で子どもたちの様子を見るが、学校の先生が行って、子どもたちが教室に入ってプログラムを学ぶのと同じように、先生方も中に入ってもらって向こうでの学校、教員としての取り組み方や考え方を学ぶ。この機会をこれに入れてもらおうといいのではと感じた。自分は素人なのでそういった面では驚きばかりだったが、この部分が必要ではと思う。それから子どもたちの適応力。これが大きくものすごいパワーを発揮していて、驚くくらい向こうに馴染んだが、せっきくの適応した部分はその適応力が大きいために、戻ってきたらまたすぐに日本に戻ってしまうのではないかと。いろんな刺激を受けて自分を見つけた部分を日本に戻ってもしっかりキープしてもらいたいという思いがあった。そのためにはこの研修期間を6日間ではなく、もう少し長く現地に居られるようにしてあげて欲しいというのが感想である。自分はこの短い期間に子どもたちの成長や変化を、目の当たりにみることができてとても嬉しかった。学校の先生方というのは日常的にそういう場にいる。自分たちがどういうアプローチをするかによって、子どもたちがどう変化するというのを常に見ていられ

る立場にいるというのは、とてもうらやましいというか素晴らしいことだと思ったので、そういったことを再度認識していただきながらやっていただきたい。

京相委員：山武南中の体育祭に行った際に、随行した校長からも嘉瀬委員が言われたような話があった。確かに短かったと。すごく内容的には良かったがもう少しあればいいなという希望が出ていた。現場からもそういう声があったということで報告する。

#### 報告第7号 千葉県防災キャンプ「生活体験学校」事業報告について

生涯学習課長：8月19日から25日までの6泊7日で行われた、千葉県防災キャンプについて、資料に基づき報告。参加した子どもたちは、様々な体験活動、共同生活を通して防災だけではなく、それ以外にも多くのことを学んだと思う。参加した子ども以上に参加した学生スタッフの学びも多かったと思われる。今回は例年行っている通学合宿を県の事業である防災キャンプに振り替えて行った訳だが、来年度以降に行う通学合宿に、今回行った防災キャンプの内容を取り入れるとするならば、土日を含めた日程で様々な体験をさせていくことが必要と思われる。

五木田委員長：ホームシックになった子どもたちはいなかったか。

生涯学習課長：ホームシックになった子はいなかったが便秘になった子がいた。食事の内容が生野菜や牛乳などを取り入れた便秘に対する対策がなかった。

高橋委員：知り合いの参加した女の子が火傷をしたそうだが、大した火傷ではなかったようだが、看護師が常駐していたので保護者としては大変安心でき、期間が長く心配だったけれども成長して帰ってきたようだとのことだった。スタッフが良かったのだと思う。

生涯学習課長：さんむ医療センターの看護師さんたちが、子どもたちのより所というような感じで、24時間体制で付き添ってくれた。

教育長：一つ報告する。今回40名を募集し参加者は23名。初めての実施ということでは、これで良かったというところもあるが、参加者に地域間格差、学校間格差ある。山武市教委として体験学習に力を入れる、事後解決、問題解決型、目指しているにも関わらず、そういう地域、学校間に格差があるというのは何なのか。ぜひ積極的な推奨をお願いしたいと、先日の校長会議でお願いしてきた。そういう現実があるということをご承知願いたい。

#### 報告第8号 さんむスプリングフェスタ(案)について

生涯学習課長：この事業については、山武市青少年育成市民会議を母体とする実行委員会組織を立ち上げ、平成26年3月9日に実施したいということで、計画案が出され

ているものである。青少年育成市民会議で構成する団体の相互連携を図ることを目的として、例年であれば11月に植樹祭を行っていたが、今年度から午前中に記録をとらないジョギングを実施して、午後から植樹祭を行うこととなっている。

(以下、資料に基づき、さんむスプリングフェスタ(案)について報告。)

午前中に「いちごジョギング」これは記録をとらないジョギングで、種目は男女とも1キロメートル、3キロメートル、5キロメートル、10キロメートルの4種目。2カ所ある給水所の1カ所では水を、もう1カ所ではいちごといちごジュースを配布するとのことである。この「いちごジョギング」については、参加費をとるということで、市内の高校生以下の方については無料、その他の方については1,000円をいただいて実施する。午後からの植樹祭については、殿下海岸(約6,000㎡)にクロマツなど合計で5,000本の植樹を予定している。なぜ今回このような内容がつまっていないものを報告したかということ、植樹祭の費用については、千葉県環境財団と千葉県緑化推進委員会からの補助で植樹祭を行うことができる。「いちごジョギング」については、高校生以外の方から参加費をとって行う訳だが、いちご代については3月ということで高額であり、いちごといちごジュースに係る経費が試算すると足らなくなってくる。今後、補正予算をお願いすることになってくると思われるので、現在こういう計画があるということで報告させていただいた。

五木田委員長：進捗については今後も報告いただきたい。

高橋委員：協賛を募るといふ案はあるのか。

生涯学習課長：今のところは考えてない。最初はそういう案もあったようだが、現時点では本当は今の予算の中でやっていければいいが、どうしても足りない面がでてきてしまうということで、協賛ではなく出来れば試算段階ではあるが、補正していただけないかという話である。

#### 報告第9号 行事の共催・後援の承認について

教育総務課長：平成25年8月1日から8月31日までに承認した、9件の後援について報告。

#### 報告第10号 10月の行事予定について

教育総務課長：教育総務課の10月の行事予定について報告。

学校教育課長：学校教育課の10月の行事予定について報告。

生涯学習課長：生涯学習課の10月の行事予定について報告。

スポーツ振興課長：スポーツ振興課の10月の行事予定について報告。

その他（発言順に大要を記載）

- 学校教育課指導室長：山武市教育ジャーナルについて報告。
- 学校教育課長：南郷小学校からのお知らせ(グラウンド改修記念セレモニー・体育科公開研究会など)について報告。

※閉会前に、小野崎委員から委員再任のあいさつがあった。

7. 閉会 午後3時36分